要旨

本論文では、現在の小学校の学校図書館における「居場所」づくりの実態と課題を明らかにすることを目的としている。「読書センター」や「学習情報センター」といった学校図書館の従来の機能に加え、「居場所」としての機能が求められていると提唱されているが、実際に「居場所」として機能できているのかは明らかにされていない。そこで、埼玉県内の小学校の学校司書 2 名を対象としたインタビュー調査を実施した。結論として、実態としては学校図書館を「居場所」として求める子どもたちがいて、学校図書館司書が子どもたち一人一人に沿った対応をその都度取っていたり、子どもたちを評価しない立場であることから安心感を生んだりしていて、学校図書館は「居場所」として機能していた。課題としては、学校司書の勤務日数が少ないこと、物理的なスペースの確保や長時間の滞在が困難であることがあった。